

会議録

審議会等の名称	令和7年第15回教育委員会(定例会)
開催日時	令和7年12月23日(火)14:00~14:44
開催場所	山口市役所会議室201
公開・部分公開の区分	公開
出席者	藤本教育長、山本委員、佐藤委員、角川委員、鮎川委員、須藤委員
欠席者	
事務局	石津部長、嶋壽教育部次長、西山教育総務課長、宮崎教育施設管理課長、上田学校教育課長、原田社会教育課長、吉賀文化財保護課長、山下中央図書館長、柳教育総務課主幹、河崎教育総務課主幹
付議案件	<p>議案</p> <p>(1)山口市文化財審議会委員の委嘱について</p> <p>報告事項</p> <p>(1)令和7年12月定例市議会における一般質問及び教育民生委員会の概況報告の対応状況について</p>
	<p>藤本教育長 ただいまから令和7年第15回教育委員会定例会を開会します。</p> <p>会議録の署名につきましては、山本委員さんと須藤委員さんにお願いしたいと思います。</p> <p>本日は、議案1件、報告1件となっております。これらの案件につきましては、市議会に上程する案件等ではありませんことから、公開にて審議したいと思います。</p> <p>では、まず、議案第1号の山口市文化財審議会委員の委嘱について事務局から説明をお願いします。</p> <p>吉賀文化財保護課長。</p>
	<p>吉賀文化財保護課長 議案第1号山口市文化財審議会委員の委嘱について御説明します。資料は①になります。1ページを御覧ください。</p> <p>本市教育委員会の附属機関といたしまして、「山口市文化財審議会」を設置することとしており、その委嘱につきましては山口市文化財保護条例第19条第1項に「教育委員会が委嘱する」と規定しておりますため、お諮りするものでございます。</p> <p>文化財は専門的分野におきまして、それぞれの技術的事項を審議する必要がありますことから、各分野お一人ずつ、学識経験者を充てているところでございまして、それぞれの分野におきまして、経験豊富で見識も深く、これまでにも私どもへ貴重な御助言をいただく機会がありましたこと、また、各種学会等におきましても御活躍されている御様子等を踏まえ、委嘱につ</p>

	<p>いて御提案させていただくものでございます。</p> <p>なお、委嘱期間は、令和8年1月1日から令和9年12月31日までの2年間でございます。</p> <p>以上で議案第1号山口市文化財審議会委員の委嘱についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願ひいたします。</p>
	<p>藤本教育長 それでは議案第1号につきまして、意見質問等はありませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>意見が無いようでしたら、議案第1号について承認される方は、挙手をお願いします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>それでは、原案の通り承認します。</p> <p>続きまして、報告第1号の令和7年12月定例市議会における一般質問及び教育民生委員会の概況報告の対応状況について、事務局からお願ひします。</p> <p>石津教育部長。</p>
	<p>石津教育部長 それでは資料①の2ページを御覧ください。</p> <p>報告第1号令和7年12月定例市議会における一般質問および教育民生委員会の概況報告の対応状況です。</p> <p>先日行われた一般質問の答弁及び教育民生委員会の概況報告の内容につきまして御説明させていただきたいと存じます。一般質問の答弁につきましては、担当課長からそれぞれ説明させていただきます。</p>
	<p>西山教育総務課長 それでは資料②を御覧ください。表紙の裏の目次です。12月議会では9人の議員さんから教育委員会への御質問がありました。</p> <p>質問項目は1ページからの一般質問・質疑通告一覧表のとおりです。答弁については、5ページからの答弁書のとおりですが、78ページまでありますので、御覧いただく資料はもう一つ別の、右肩に③と書いてあります、こちらの概要版に沿って、各担当課から御説明いたします。</p>
	<p>吉賀文化財保護課長 資料③の1ページを御覧ください。</p> <p>それでは、野村幹男議員の「イ 文化財の保存、活用について」の御質問の①山口市文化財保存活用地域計画と②周防鑄銭司設置1200年記念事業について報告します。</p> <p>①の質問のポイントは山口市文化財保存活用地域計画におけるこれまでの取り組み状況と今後の取り組みについてです。</p>

答弁の概要は、本計画における主な取組実績として、史跡大内氏遺跡のうち築山跡に史跡公園の整備や史跡を活用した定期的なイベントの実施、史跡周防鑄銭司1200年記念事業として周防鑄銭司1200フェスを鑄銭司自治会と共同開催、また学校における地域の歴史文化や文化財についての授業、発掘体験など、児童・生徒の学習機会の充実を図る取組も行っており、今後もこうした取組を着実に実施し、本計画に掲げる基本理念「多彩な山口の宝を知り、生かし、未来へ伝える」の実現を図ってまいりたいと考えております。

次に、②の質問のポイントは、史跡周防鑄銭司跡の今後の発掘事業と活用の取組についてでございます。

答弁の概要は、本史跡は「史跡周防鑄銭司跡保存活用計画」に基づき、各種事業を実施しており、最優先課題を「調査・研究の推進」としておりますことから、引き続き、発掘調査を重点的に進めてまいります。

資料2ページでございます。

今後の活用につきましては、本計画において、史跡の活用の促進、情報発信、学校教育・社会教育における史跡の活用の促進を掲げており、引き続き、各種取組を地元の鑄銭司・陶地域と連携を図りながら実施していくと考えておりますし、周防鑄銭司の実態解明に向けた調査に注力するとともに、様々な活用を通して、ふるさとへの誇りと愛着の醸成を図り、交流人口の増加による地域活性化につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

上田学校教育 課長 学校教育課から「オ 公立学校の長期休業の短縮について」ということで、御質問がありました。

質問の要旨としては、これまで伊藤議員からは夏休みの短縮とか、冬休みの短縮という質問を受けておりまして、それによって、児童生徒、そして教職員の負担が減るのではないかということで、改めて質問がありました。

答弁をいたしましては、本市教育委員会においては他の自治体の状況を踏まえて運用の在り方について検討を重ねてきましたということで、夏冬春休みのそれぞれのメリット、デメリットというのを他市町の状況を踏まえて整理をしていますよということを御案内させてもらいました。その結果を含め、令和8年度と令和9年度の2年間、春期休業の延長を試験的に実施したいということで答えております。具体的に令和8年の日程で、4月の8日と9日を臨時休業、夏休みの8月の28日と31日を出校日ということで検討し、そして令和9年までを見て、改めて今後の在り方について、考えていきたいということで、答弁しております。

続きまして、梶山議員の「イ 子どもたちが未来を生き抜くための本物の学力について」ということについて、大きく3つ聞かれております。一つは第

三次山口市教育振興基本計画の中の教育目標、これが本物の学力育成とどうつながっているのか、二つ目が全国学力学習状況調査における本物の学力がどのように結びついているか、三つ目が不登校児童生徒の現状と本市の学力の育成との関連性についてということで、3つ聞かれております。

まず一つ目の教育目標の関連ですが、この教育目標そのものを実現するためには、本物の学力の育成を核とした各中学校区における学校、家庭、地域が連携、協働をした小中一貫教育を含めて、いろいろな成果を展開しているということで、述べさせていただいております。

次に全国学力学習状況調査と本物の学力につきましては、小鯖小学校での図書室、地域の方との連携した取り組み、小郡中学校による中学生が出前授業で小学校に行くもの、それとそういった取り組みの中で、全国学力学習状況調査が昨年同様に、県および国の正答率を大きく上回っていることを紹介させていただくとともに、同調査の質問紙において夢や目標を持っているか、地域をよりよくしたいと思うか、などの質問に対して肯定的な回答をしているということで、認知能力、非認知能力ともに高まっているということで、本物の学力というのは全国学力学習状況調査の一つの指標であるということで、関連付けていると、お答えさせていただいております。

合わせて三つ目の不登校児童生徒と本物の学力の育成につきましては、小学校については横ばい状況、中学校については54名減っている。数までは言いませんが、4年ぶりに減少しているということで、お伝えさせていただいております。

その中で、不登校の子どもたちがやはり根本的には未然防止も必要ですが、子どもたちが学校に来たいと、学校を楽しいと思えることが重要であり、そのためには本物の学力の育成の中である、魅力ある授業づくり、魅力ある学校づくり、これが根底にあるのではないかということで、関連付けてお答えさせていただいております。

続きまして、楫山議員の「ウ 次世代の教員を育成するための取組について」、高校生、大学生が活躍する機会の拡充ということで、御質問いただいております。

これにつきましては、本市で行っている高校、そして大学との連携を紹介しております。まず一つ目は高校生が子どもや教職員と関わるということで、大内中学校における山口中央高校の生徒が土曜日に来て勉強を教えるというところ、それと西京高校の生徒が平川小学校でラジオ体操、それと全市展開でスポーツ少年団等での技術指導をすること、山口農業高校の生徒が上郷小学校に米作りやサツマイモの栽培の指導を行っていることを紹介しております。次に大学生が子どもや教職員、さらには地域の方々と関わる取り組みでは、山口大学教育学部、そして山口学芸大学の教育学部のですね、それぞれフューチャールームの取り組みであったり、ちゃぶ台次世代コーホートを実施していることを紹介しております。

合わせて、教育学部以外の大学生ということで、山口大学国際総合科学部の学生による平川小学校での支援、そして山口県立大学看護学部の宮野小学校におけるサポート、それと合わせて平川中学校区で行われている平川未来会議に大学生が参加して、さまざまに意見を述べるなど参画を行っているということを、伝えさせていただいております。

最後に締めとして、なによりも教職員を目指すというのは、小学生、中学生の時に、今の先生方が楽しそうに魅力ある学校生活を送っている楽しそうに一生懸命にやっている姿、そうした背中を見せていくことが重要であるということで、そのためには現職教員が目の前の子どもたちに真摯に向き合って、魅力ある教員を目指して研鑽し続ける、姿勢を見せることが重要であるということで、今後三つの大学、それと特色ある高等学校との連携を深めながら、教職員を目指す学生を一人でも増やしていきたいということで、お答えさせていただいております。

学校教育課からは以上となります。

宮崎教育施設
管理課長 次に有田議員の「ア 成長戦略について」の御質問のうち、③児童が増加する学校への対応についてです。

質問のポイントは、嘉川小学校は児童が増加傾向であり、校舎やグラウンド等の不足が長期的に見込まれています。将来を見据えると、新たな土地の取得も必要と考えるが、現時点での市の考えを伺うという御質問でした。

答弁の概要につきましては、小規模の宅地開発等が続いていることに伴い、嘉川小学校では児童が増加しており、本年4月から普通教室が不足する状況となり、図工室を転用するなど、今後も教室不足が見込まれます。また給食の供給体制についてもこれ以上の児童の増加に対応することができない状況になっておりましたことから、来年度から小郡学校給食センターからの配達に切り替えることとし、嘉川小学校の敷地に給食受入施設を新たに建設するとともに、既存の給食室を解体し、その跡地に校舎を増築する方針とし、現在鋭意取り組んでいるところです。こうした取り組みにより、当分の間、嘉川小学校では児童数の増加に対応できるものと考えており、引き続き嘉川地域の宅地開発等の状況を注視しながら、児童数の増加に対応していきたいと考えていると答弁しております。

また再質問で、南部1万人プロジェクトで1万人増やすと言われたが、当然嘉川はもっと増える状況にある中で、その辺の横のつながりがどうなっているのかと御質問いただきました。

再質問の答弁につきましては、今後も嘉川地域の人口増加が続いて、現在の校舎やグラウンド等では支障が生じる状況が見込まれる場合には、その時点で適切に対応していきたいと考えていると答弁しております。

以上です。

上田学校教育課長	<p>学校教育課です。坂井議員からは「ア 児童生徒及び若者の居場所づくりについて」ということで、①不登校の概念の変容と認識の転換、②児童生徒への多様な選択肢の提供ということで、御質問いただきました。</p> <p>①のポイントとしまして、令和元年に10月に、文部科学省の方が不登校児童生徒への支援の在り方ということで、学校復帰が目的ではないというふうに伝えたことに対することで、合わせて令和5年11月に、令和元年にそのように通知しているが、学校には教育的意義がすごくあるので、学校復帰をしないではなくて、学校というのを大事であるが不登校支援をしっかりやっていきなさいよということで、文部科学省の概念の変容について本市の改めての考え方を伝えてほしいということが①です。</p> <p>②につきましては、大まかにいうと、学校教育、教育委員会がやっていること、民間がやっていること、それをまとめたハンドブック、そういうものを作って、困ったときにそのハンドブックを開けば、すぐに支援につながるようにしてはどうかという質問です。</p> <p>①につきましては、令和元年、学校に登校することの結果のみを目標にするのではなくて、令和5年11月に合わせて学校がやはり子どもたちにとって、社会復帰を目指す中で大変重要なものであるということを改めて認識しているということをお答えしております。</p> <p>そうした中で、本市におきましては、学校に行きたいと思える魅力ある学校づくりと、学校に、外に一步出られる生徒への支援をこれまで重点的にやってきたと、一方で、家に引きこもっている生徒の支援はまだまだ不十分であるので、昨年度あたりから、その重要性を再認識し、支援に力を入れているということで、お答えさせていただいております。</p> <p>そして具体的なものとして、一つ目の学校に行くことはできても、自分の学級に入ることができない児童・生徒、それと学校にいけない児童・生徒、それと家に引きこもっているという三つの段階で具体的にどのような取り組みをしているということで、それをお答えしております。</p> <p>一つ目の児童・生徒につきましては、ステップアップルーム事業、それとフューチャールーム事業、二つ目の学校にいけない児童・生徒に対しましては、分教室であったり、山口教育支援センター、フリースクール等の民間との連携、三つ目の家から出ることが難しい生徒につきましては、一人1台端末を使ったオンライン授業配信、担任やスクールソーシャルワーカーによる家庭訪問、それと今年度新たに不登校支援に特化した不登校専門相談員を2名配置しておりますので、アウトリーチ型による支援というのを紹介させていただきました。引き続き、これについてはしっかり力を入れて、特に三つの家に引きこもっている児童・生徒、この支援につきましてはさらに強化してやっていきたいということを伝えさせていただいております。</p> <p>次に②児童生徒への多様な選択肢の提供についてです。これまで民間団体との連携であったり、フリースクールに通学していた高校生を招いて、</p>
----------	--

山口市の学校保健委員会でその生徒が実際に養護教諭等と意見交換をする場面であったり、保護者カフェ、そういったことのものであったり、社会福祉協議会が行っているふれあいきいきサロン、これに山口市教育支援センターで利用する児童・生徒が関わる場面であったり、不登校児童生徒及び保護者に対しての支援を目的に開設された、子ども家庭教育支援センターあおぞら、これは維新公園の近くに新しくできた施設なのですが、こちらについて、しっかり連携を今図っていますということを紹介させていただきました。

他方、そういった様々な支援内容を一つにまとめたものというものは作っていませんでしたが、これにつきましては、実は坂井議員が質問をされた時には、これを作ろうということで、プロジェクトが既に立ち上がってましたので、パンフレットまではいかないのですが、リーフレットという形で、山口市の地図の中に、こういう民間団体があって、そこに QR コードを紐づけてですね、それを携帯等で読み込んだらそこの連絡先であったり、事業内容であったり、どういう支援が受けられるというものを、今、作成を始めようとしていますので、そのことを紹介させていただきました。

以上です。

宮崎教育施設 管理課長 次に、栗林議員の「ア 防災減災対策について」の御質問のうち、①避難所の充実についてです。

質問のポイントは学校体育館へのエアコン設置は対象が多いがどのような整備スケジュールで行うのか、不公平感が出ないように、どうやって進めしていくのか、市の所見を伺う。また災害時には停電が想定され、LP ガスを活用したエアコン設備を検討することも、選択肢の一つと考えるが、市の所見を伺うという御質問です。

答弁の概要につきましては、整備スケジュールにつきましては、対象校が多くあることから、年次的に進めることとして、国の目標値である令和17年度を念頭におきながら、できるだけ早期の整備完了を目指していきたいと考えており、整備に当たっては、児童・生徒数や学校以外の指定避難所における、エアコンの設置状況、過去の災害発生の状況をはじめとする様々な要素を踏まえ、地域バランスを考慮しながら進めていきたいと考えていると答弁しております。

LP ガスを使ったエアコンの設備の検討につきましては、学校ごとに既存のインフラ整備等の状況が異なりますことから、設計段階において災害における安全運転の視点や設置後の維持管理経費等も含めて総合的に検討し適切な機器の選定を行っていきたいと考えますと答弁しております。

再質問で、年次的というふうに回答があつたが、やはりスピード感を持ってやるべきではないかとの御質問をいただきました。これにつきましては、一斉に設置となりますと、単年度に大きな財政負担が必要となるほか、機器

の更新時期等も同時になることから、平準化を図る必要があると考えております。また市内業者による受注が可能となるよう、発注方法についても配慮するべき点がありますことから、今後関係部局と協議してまいりたいと考えていると答弁しております。以上です。

西山教育総務課長 続いて同じく栗林議員の「エ 学校環境の整備について」の御質問の①教材整備指針の活用と②学校給食への対応についてです。

質問のポイントは、まず①理科教材の整備の現状について伺う。また教材整備指針に基づく理科教材の整備についてどのように取り組んでいるのか伺うというものです。

そして②今後も物価高騰が続き食材へ影響が生じる中、保護者負担を増やすことなく、安定的に給食を提供するため、引き続き公費負担による支援を行われると思うが、令和7年度の残り4か月と令和8年度の対応について所見を伺うというものです。

答弁の概要は、まず①、理科教材整備事業は国の教材整備指針に沿って、学校からの意見や要望を聞き取りながら計画的に取り組んでいる。毎年小学校3校、中学校3校を対象として、それぞれ20万円程度の教材を購入しており、学校間の偏りが生じないようにしている。こうした対応により、顕微鏡や電子てんびんをはじめとする学校でよく使用される教材はすでに全校に配備しており、教員からは充実していると聞いている。しかし、年数の経過に伴い授業で使う理科教材が変わってくることから、引き続き、学校の希望を受けながら、理科教材の整備に取り組んでいきたいと考えているという形で、答弁をしております。

次に②は、本市では食材費の高騰が続く中でも保護者負担を増やすことなく、安定的に給食を提供するため、令和7年度には、9月議会の補正予算を含めて、合計約2億5千7百万円の公費負担を行っている。しかし想定を超える物価高騰が続いている、米の価格が改定され、4月と比べて精米は約40%、炊飯されたご飯は約20%の引き上げとなった。こうした想定を上回る物価高騰に対応するため、今期定例会に提出している補正予算に710万円を計上している。今年度の残り4か月はこの補正予算を含めた総額約2億6千410万円の公費負担により、保護者負担を据え置きながら対応したい。また令和8年度予算は、現在、編成作業を行っているが、国の経済対策の推奨メニューとして、学校給食費の支援が掲げられているので、本市としては引き続き物価高騰が続く中でも、保護者負担を増やすことなく、子どもたちに安定的に給食を提供するため、交付金を十分活用して、物価高騰分については、今年度と同様にしっかりと対応してきたいと答弁しております。

以上です。

<p>上田学校教育 課長</p>	<p>大田議員からの「ウ 山口市就学援助制度の拡充について」ということで、御質問をいただきました。</p> <p>要旨のポイントといたしましては、高騰する制服代や自転車通学のヘルメット代などを考慮した支給額の増額、これがまず一つです。それと新入学学用品の支給日程を前倒しにする必要があるのではないかということで、質問をいただいております。</p> <p>また、就学援助認定基準が平成24年の生活保護基準を用いているが、提言では見直しを示されていますと、それを平成24年のままにしてはどうかということで、御質問をいただいております。</p> <p>答弁のポイントとしまして、山口市の就学援助の交付要綱、これを定めて、きちんと検討しているということ。それと山口市就学援助制度適正化検討委員会、これを設置して3年に1度、就学援助について、基本的なあり方とその具体的な方策について提言をいただいているということを説明しました。</p> <p>昨年度、令和6年度に実施した検討委員会において、今言いました、議員御質問の支給額の増額については、委員から御提言をいただいていると。そのことを踏まえて、国の動向などを参考にして、令和8年度予算編成の中で、検討してまいりたいというふうに、お答えさせていただいております。</p> <p>そして前倒しについては、実際に前倒しして、11月であるとか、2月の仮入学の時に、実際にお金を払うという場面が出ているというのは、十分に分かっておりますと、ただそれにつきましては、3月に転居が決まりますので、ここまで具体的には言っていないのですが、3月に転居したときには、2重どりができる可能性があるのです。そのことを踏まえて、検討しながら、すこし前向きに考えていきたいというふうにはお答えしております、ということで</p> <p>そして認定基準、本市は平成24年の12月の時点の生活保護基準で運用しています。これを平成24年から10年かけてかなり縮小されておりまして、直近の令和5年の基準、これに合わせますと、本市においては、約150世帯が対象から外れるというような現状があります。これを紹介させていただきました。合わせてこれは議会では言っていないのですが、国の方が最高裁で令和5年にしたときに、違法である判決が直近で出ています。令和5年の基準にした場合には影響が大きいということを前面に出しながら、慎重に検討していきますということで、お答えさせていただいております。</p> <p>以上です。</p>
<p>原田社会教育 課長</p>	<p>米本議員の質問についてです。「ア 誰もが地域に愛着を持ち活躍できる社会の実現について」という質問でした。</p> <p>質問のポイントは、誰もが地域に愛着を持ち生き生きと活躍できる社会の実現についてというものです。</p>

答弁の概要としましては学校、家庭、地域、関係部局、様々な関係団体との連携を密に図りながら、大きく二つの取り組みを進めていきたいと答弁しております。

一つ目が、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動のさらなる活性化です。特に学校運営協議会において熟議を重ねていくことは、子どもの問題に向き合うだけにとどまらず、そこで生まれる気づきが、大人社会に存在する課題や地域社会が抱える課題へと視野を広げるきっかけにもなります。こうした気づきは大人の学びにもなり、自分たちの地域をよりよくしていくという、当事者意識の高まりにつながっていくものと考えております。

二つ目が社会教育を中心とした、人づくり、つながりづくり、地域づくりの好循環の創出です。「人づくり、つながりづくり」とは、個人の問題意識や関心をきっかけとした学びの場を起点とし、対話や議論を通じて、住民同士がつながりあい、助け合える関係を構築することであり、さらに地域住民が地域への愛着やほこりを持って地域活動に主体的に参画することで、活力ある魅力的な地域づくりにつながっていくものとらえております。

こうした人づくり、つながりづくり、地域づくりの好循環を創出するためには、地域交流センターの果たす役割は一層重要となっていくと考えております。

そこで今後も、地域交流センターとの連携を密に図りながら、地域をよりよくしたいと思う人たちが活躍できる場や、人と人とが交流する場の創出をはじめ、自分の住む地域への愛着とほこりを持つための取り組みの支援ややまぐち路傍塾による地域人材の活用促進など、各地域に寄り添った支援を行っていきたいと考えております。

以上です。

西山教育総務課長 それでは、最後です。伊藤青波議員の「ア 物価高対策について」の御質問のうち、③学校給食への対応についてです。先ほどの栗林議員さんへの質問答弁と重複するのですが、質問のポイントとしましては、現在も公費を投入して、保護者負担を据え置きながら対応されているが、国から示された交付金の推奨事業メニューで小中学生の保護者の負担を軽減するための学校給食等の支援を掲げられているので、これを活用し本市では、どのような支援を行おうと考えているのか伺うというものです。

答弁の概要は、想定を超える物価高騰が続いている、お米の価格が改定され、4月と比べて精米は約40%、炊飯されたご飯は約20%の引き上げとなった。9月補正予算では、12月にお米の価格が上がることも想定していたが、それを上回る増額となったことから、食材費の不足が見込まれるため、補正予算に710万円を計上しており、今年度はこの補正予算を含めた総額約2億6千410万円の公費負担により、保護者負担を据え置きながら対応していきたいと考えている。また令和8年度予算については、現在編成作業

を行っているが、国の経済対策の推奨メニューとして小・中学校における、学校給食費の支援が掲げられており、本市としては引き続き、物価高騰が続く中でも保護者負担を増やすことなく、子どもたちに安全安心で栄養バランスの取れたおいしい給食を提供するため、交付金を十分活用して、食材費の物価高騰分については、今年度と同様にしっかりと対応していきたいと考えているとお答えをしたところです。

一般質問質疑の概要については以上です。

石津教育部長 続きまして、わたくしから、教育民生委員会の概況報告について説明させていただきます。資料②の79ページを御覧ください。

一点目が山口市いじめ問題対策連絡協議会の開催についてです。

去る11月13日に令和7年度の協議会を開催しました。この協議会はいじめ防止対策推進法の規定に基づき、本市のいじめ防止に向けて関係機関との連携強化や、情報共有を図ることを目的に、本市教育委員会を事務局として設置しているものです。委員は市内小・中学校長をはじめ、行政機関、専門的な知識や経験を有するものの内から16人で構成し毎年開催しているものです。

この度の協議会では、まず事務局から本市のいじめの発生状況や発生防止のための取り組みなどについて説明し、その後、小・中学校長から学校におけるいじめの現状について報告を受けました。

委員からは児童・生徒からの聞き取りを行う際には、先入観を持たずに行ってほしいなどの御意見をいただいたところです。

本市教育委員会としては、いじめは絶対に許されないという考え方のもと、本協議会の御意見を踏まえ、引き続き関係機関と連携を図り、いじめ解消率100%を目指して取り組んでまいります。

二点目が、山口市二十歳の集いについてです。令和8年の二十歳の集い記念式典は1月11日に山口市民会館において、平成17年4月2日から平成18年4月1日までの間に生まれた、本市出身者約1,900人を対象に開催することとしております。

内容につきましては、昨年と同様ですが、抽選会をはじめ、山口地元発見ガチャやフォトスポットの設置、記念撮影などを行うこととしております。

人生の節目を迎えての大きなイベントの一つであります二十歳の集いが、ふるさと山口を誇りに感じてもらい、御家族や地域に対し感謝の気持ちを新たにする良い機会となりますことを願いつつ、皆様の心に残る式典としてまいる所存です、と以上2点を概況報告しました。

報告1号につきましては、以上で説明を終わります。

藤本教育長	それでは、報告第1号につきまして、全体を通して意見質問等がありまし たら、お願ひします。 はい、山本委員さん。
山本委員	大田議員さんの就学援助です。以前、生活保護基準をもとにして、その 支給対象者の山口市は段階的な支給に取り組んだことがあるのですが、今 でもそれは続いているのですか。
藤本教育長	上田学校教育課長。
上田学校教育 課長	三つのグループに分けて、支給しております。それが平成24年の基準で あれば、3番目のグループはそこに当てはまるのです。3番目は給食費の支 援で、これは令和5年の基準になると150人に影響するということです。
山本委員	そういうことですか。ありがとうございました。
藤本教育長	他にございましたらお願ひします。 はい、須藤委員さん。
須藤委員	坂井議員さんから頂きました不登校の子どもたちへの支援の件な どが、アウトリーチ型の支援、ここにも力を入れていくというふうにおっしゃっ ていただいたと思うのですが、実際、アウトリートしていくとニーズはかなり 多いと理解してよろしいですか、ちょっと抽象的ですが。
藤本教育長	上田学校教育課長。
上田学校教育 課長	今年ですね、アウトリーチということで2名の先生方、両方とも元中学校 の校長先生ですが配置をしております。ニーズについては、たくさんの子 どもがいるわけではなくて一人の子どもに対してかなり支援を、1週間に2回、 3回、しかも学校にいけない子なので、地域交流センターをはじめ、いろ いろな場所を提供していただきながらやっております。 多くはないのですが、一人ひとりの子どもに寄り添った、きめ細やかな、 指導体制としては、充実をしております。
須藤委員	ありがとうございます。おそらくかなり専門性が必要だったり、かなりいろ いろな事情が絡みそうなところだと思いますので、数だけではなくて、やっ ぱり質のところも重要なのかというふうに思います。ぜひよろしくお願ひした いと思います。

	<p>もう一点、よろしいでしょうか。 リーフレットはまだ作成途中ということですが、どういったところに配る予定とかございますか。</p>
藤本教育長	上田学校教育課長。
上田学校教育 課長	<p>これは、財政的なものも含めて紙媒体というよりも電子媒体とかで学校に配布できるような形で保護者に全部ばあつといけるような形で、こういうようなパンフレットみたいなものを作って、それを PDF とかにして、今であれば、例えば PDF であればピッとボタンを押したらジャンプ機能がついていたり QR コードだったら読み込んだらそこにジャンプ機能が付くので、山口市の地図全体があって、例えば徳地にハッピーエデュケーションというフリースクールがあるのですが、そこがピーと紐がついていて、そこにハッピーエデュケーション、フリースクール、ポンと押したらジャンプするとか、そういったことで、電子媒体での配布を今のところは考えております。</p>
須藤委員	端末等を使ってやるということですね。
上田学校教育 課長	保護者の緊急メールシステムとかもうまく使いながらですね。
須藤委員	わかりました。ありがとうございます。
藤本教育長	<p>その他、ありますか。 はい、佐藤委員さん。</p>
佐藤委員	<p>その今の山口市内のフリースクールとかって、どこかに偏在しているものですか。地域ごとになんかどれくらいあるのかなというか、なんかこの前、秋穂でやりたいという話を聞いたことがあるのですが、秋穂は今少ないからという話をされていて、どの地区にどれくらいというかそういう、偏在具合とかいうのはあるのでしょうか。</p>
藤本教育長	上田学校教育課長。
上田学校教育 課長	<p>これについては、例えば私塾とフリースクールの仕分けはすごく難しいのです。昼間に子どもさんを預かられているところというのも結構あるので、フリースクールが何校あるか、フリースクールの概念のこの幅というのが、かなり難しいところがあるので、はっきり何校ということはお答えすることはできないのですが、市の方で、何校あるかというのには、ある程度グリップはしております。その中で、子どもたちが実際に通っているところとは、確実に</p>

	<p>市の教育委員会の指導主事と校長が一緒に訪問して、どういうところで学んでいると、これを出席扱いにするかしないか、ということが確実にやるようになっています。</p>
	<p>佐藤委員 どれくらいなのかなと実際自分は全然わからないし、今どんどんできてきているし、私が聞いたところはどちらかというと、就学免除になっているような障がいの重い子たちをフリースクールで見ていくみたいなところの取り組みをしようとされている方もいらっしゃっていて、一体どれくらい山口市内にあるのだろうとちょっと興味を持って。</p>
	<p>上田学校教育 計画課長 公的なフリースクールは山口市にはありません。これは本来教育支援センターが二つありますが、そこが代わりにやっておりますので。 先程も申し上げましたとおり、フリースクールについては塾との線引きがかなり難しいので、通っている生徒を基準に小学校で8施設、中学校で13施設、それぞれ16名と26名が通学しております。これが、本市として実際に指導主事と校長が定期的に訪問して、どういう支援をするかとか出席扱いにするか子ども達の様子の確認を行っている施設の数でございます。</p>
	<p>藤本教育長 はい、ありがとうございます。 他に何かございませんか。よろしいですか。 無いようでしたら以上で本日の付議案件については終了しました。 次回の定例会は、こちらの会議室 201 で、1月27日(火)、午後 2 時からの予定です。 よろしくお願ひいたします。 以上をもちまして、令和7年第15回教育委員会定例会を閉会いたします。</p>
署名	<p>上記のとおり相違ありません。 令和 年 月 日</p> <p style="text-align: right;"><u>教育長</u></p> <p style="text-align: right;"><u>署名者</u></p> <p style="text-align: right;"><u>署名者</u></p> <p style="text-align: right;"><u>会議録調製</u></p>